

令和 6 年 1 月の解説（府県天気予報）

【1 月の天候状況】

上旬は、全国的に天気は数日の周期で変わった。冬型の気圧配置が長続きせず、平年に比べ晴れの日が多かった東日本日本海側では、旬間日照時間がかなり多かった。その中で、7 日から 8 日にかけては冬型の気圧配置が一時的に強まり、寒気の中の低気圧の影響を受けた北海道を中心に北・東日本日本海側で大雪となった所があった。低気圧の影響が弱かった西日本日本海側、東・西日本太平洋側では旬降水量が少なく、旬間日照時間が多かった。旬平均気温は、寒気の影響が弱く、南から暖かい空気が流れ込んだ日もあった東日本でかなり高かった。

中旬は、冬型の気圧配置が長続きせず寒気の影響が弱かったため、旬平均気温が西日本ではかなり高く、東日本と沖縄・奄美では高かった。その中で、15 日から 16 日にかけては一時的に冬型の気圧配置が強まり、北海道地方を中心に北・東日本日本海側で大雪となった所があった。旬間日照時間はほぼ全国的に多く、特に冬型の気圧配置の影響と低気圧や前線の影響が弱く、高気圧に覆われて平年に比べ晴れた日が多かった西日本日本海側と沖縄・奄美で、かなり多かった。

下旬は、期間のはじめと終わりは、低気圧や前線が本州付近を通過し、全国的に曇りで雨や雪が降った所が多く、北・東日本太平洋側を中心にまとまった降水量となり、北日本では 21 日を中心に大雨や大雪となった所もあった。期間の中頃は低気圧が北日本付近や北海道の東で発達し、冬型の気圧配置が強まった時期があったため、日本海側を中心に雪や雨が降り、24 日から 25 日は大雪となった所があった。このため、旬降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。旬降雪量は、西日本日本海側でかなり多かった。旬間日照時間は、北日本太平洋側でかなり少なく、北日本日本海側で少なかった。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、旬降水量は少なかった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすかった北日本でかなり高く、東日本で高かった。一時的に寒気の影響を受けた西日本と沖縄・奄美では、気温の変動が大きかった。

【1 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 85%で、明後日予報は例年値より 4 ポイント高い 85%でした。地方別の適中率では、明日予報は、東海と北陸、近畿地方以外の各地方で例年値と同じか例年値を上回りました。また、明後日予報は、東海と近畿地方以外の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.2℃で、全ての地方で例年値と同じか例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.3℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3 月の天気予報の利用にあたって】

3 月になると、日本付近で冬型の気圧配置が続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互

に通過して天気が数日の周期で変わりやすくなります。また、急速に発達する低気圧によって「春の嵐」となることがあるため、突風や強風に注意が必要です。災害に備えて、各地の気象台が発表する最新の警報や注意報、早期注意情報、気象情報に留意して下さい。